LONGRUN

LET'S ENJOY GEOGRAPHY TOGETHER!

2021　新歓号

東京大学地文研究会

地理部

LONGRUN 2021 新歓号

目次

部長挨拶 2

そうだ、巡検行こう 4

地理部の合宿 6

地図作業のすゝめ 7

神田川上流巡検 2020 8

大山道でゆく世田谷巡検 2020 17

ようこそ地理部へ！

LONGRUN(ロングラン)とは、東京大学地文研究会地理部が発行する部誌の名称です。この LONGRUN 新歓号は例年サークルオリエンテーションに参加する新入生に紙媒体のものを配布するのですが、昨年より続いております感染症の流行によりこうした形で我々地理部の活動を新入生に紹介することは叶わなくなってしまいました。

そこで、一部に改変を加え誰でも閲覧可能な形で HP に公開することにいたしました。地理部の主な活動である巡検・合宿・地図作業の 3 つの紹介の他、2020 年度に実施した巡検から「神田川上流巡検 2020」と「大山道でゆく世田谷巡検 2020」の 2 つを選び、その見どころについて解説を加えた巡検記を掲載しております。当部の雰囲気を少しでも感じ取っていただければ幸いです。

地理部では新入生向けに新歓用メーリスを用意しております。お手数ですが、参加を希望される方は必ず登録をお願いいたします。以下のメールアドレスに空メールを送り、新歓メーリスの招待が来るのをお待ちください。

chiribu.shinkan(a)gmail.com　((a)を@に変えて送信してください。)

なお、2 年生以上の方で入部を希望される方は、以下のメールアドレスまでご気軽にお問い合わせください。

chiribu(a)gmail.com　((a)を@に変えて送信してください。)

皆さまとお会いできることを心待ちにしております。

70 期編集

部長挨拶

2021 年 3 月 30 日 70 期部長

１．はじめに

新入生の皆様、こんにちは。地理部 70 期部長です。本日は地理部に興味を持ってここまでたどり着いてくださり誠にありがとうございます。こちらの部長挨拶では、地理部の活動内容のおおまかな内容や雰囲気について紹介しようと思います。各活動内容の詳細については、これ以降の記事をお読みください。

２．地理部の基礎情報

地理部とは、端的に言うと、**地理が好きな人々が集まるサークル**です。地形、交通、河川、都市計画、旧街道、宿場町といった多様な趣味を持つ部員が、地理という共通項の元に 1 つの場に集まり、互いに自分の興味を持つ分野の知識を深め合うことができる場、そして自分が今まで詳しくなかった分野や興味の無かった分野に触れることができるような場を形成しています。この**多様性**が地理部の活動を彩り、味わい深いものにしています。

１学年の人数は入部当初は 30 名ほどですが、年度途中から入部する方や、2 年生以上の新入部員も多くいます。他のサークルとの掛け持ちも自由です。新 2 年生（70 期）は 1 学年で 70 名超います。他大生は 2 割程度、男女比は 8：2 程度です。

また、部費の徴収はいたしません。（活動参加時の交通費等は自己負担です。）

３．地理部の主な活動

地理部の主な活動は「**巡検**」、「**合宿**」、「**地図作業**」の 3 つです。これらの活動の詳細については以降の記事にて語られているため、ここでは概略のみを説明します。

これらの活動に共通する特徴を先に述べると、参加自由で、途中合流や途中離脱等も自由であることです。これらの活動に全て参加しなければならないという規則は全くありません。この**自由度**こそ、地理部の最大の魅力と言えるでしょう。

①巡検

主に土日に週一回程度、東京近郊にて日帰りで行う街歩きのことです。歩行距離は 4 時間、10km ほどが目安です。企画や案内は全て部員が行います。参加自由で、途中合流や途

中離脱も自由なので、空いた時間に気軽に参加することができます。

巡検の魅力は、何といっても多様な趣味や知識、出自を持つ部員が企画する巡検の多様性にあると言えます。まだ見たことのない街を探索する体験や、馴染みのある街でも自分にはなかった視点からその街の姿を見つめ直す体験は、知的好奇心をくすぐる絶好の機会になるでしょう。

②合宿

主に長期休みに国内で、年 6 回ほど行います。部員の企画案内のもとで遠方の街を探訪しましょう。こちらも巡検と同じく、企画や案内は全て部員が行います。参加自由で、途中合流や途中離脱も自由です。また、合宿では皆が 1 つのルートにまとまって動くわけではなく、数個の分隊が形成されてそれぞれ別の行き先や経由地を用意していることが多いので、行き先の選択肢は多様です。宿泊地さえも皆が 1 つにまとまる必要はなく、皆とは違う宿泊地に泊まることも可能です。合宿の魅力も、巡検と同じく多様な趣味や知識、出自を持つ部員が企画することによる多様性にあるでしょう。

なお、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、現在、当面の間合宿ができない状況になっています。

③地図作業

主に平日夜（19:00～21:00 ごろ）に、例年は東大駒場キャンパス内で行っています。（ただし学外生の入構制限がかけられている現在は、学外の作業スペースを利用して行うことが多くなると思われます。）

ここでは、駒場祭や五月祭で展示する**「立体日本地図」**の制作や修繕を行っています。「立体日本地図」は、歴代地理部員が 8 年の歳月をかけて作り上げたもので、20 万分の 1 スケールで、全長 17m ほどになります。制作の際に熟練の技や特殊な技能などは必要としません。制作に必要なカッターやスチレンボードなどの工具や材料は部室に保管してあります。

４．おわりに

このように、地理部の特徴や長所は部員が創造する活動の**多様性**と**自由度**にあります。参加は自由であり、一度参加したからといって次の巡検への参加を強制させられることも決してありません。巡検や地図作業は 4 月にたくさん開催される予定でありますので、少しでも興味を持たれた方は一回だけでもいいので是非参加されることをおすすめいたします。私からの挨拶は以上とさせていただきます。ありがとうございました。

そうだ、巡検行こう

70期庶務

そもそも巡検とはどういったものなのでしょうか。Wikipediaを引いてみましょう。「実地調査、現地調査を意味する用語。Field Excursionsの訳語」とあります。基本的にはフィールドワークと同義に扱われているようです。しかし、本稿ではもう少し柔らかく、「街歩き」と説明してみようと思います。お堅いイメージもある「巡検」が、「街歩き」として地理部の大きなイベントになり得る所以を、以下にご説明しましょう。

地理部の「巡検」は、必ずしも学術的な色彩のみを帯びている訳ではありません。地理部三大活動として「地図作業」や「合宿」と並び称されるなど、サークルとしての地理部の活動を支える重要な行事となっています。したがって、楽しむという要素も重視されていて、東京湾に落ちる陽を眺めたり、寺社の境内で大量の招き猫と出くわしたりなど、参加者を飽きさせない工夫が随所に凝らされています。

本来は、巡検は朝起きてその日の気分で参加するかしないか決めることができる、極めて緩い性格の活動でした。土日休日に開催されることが多く、暇を埋めることができる行事であったわけです。もちろん参加は任意で、一切巡検に来ない部員もいますし、それでも一向に問題はありません。現地集合・現地解散で、「前哨戦」や「延長戦」と題して自主的に地域を巡ることもできました。最も重要なことは、参加費がかからないということです。（開催場所へ向かう交通費等は各自で支払うことになりますが…）そもそも地理部では部費を徴収しておらず、懐を痛める心配が一切ありません。

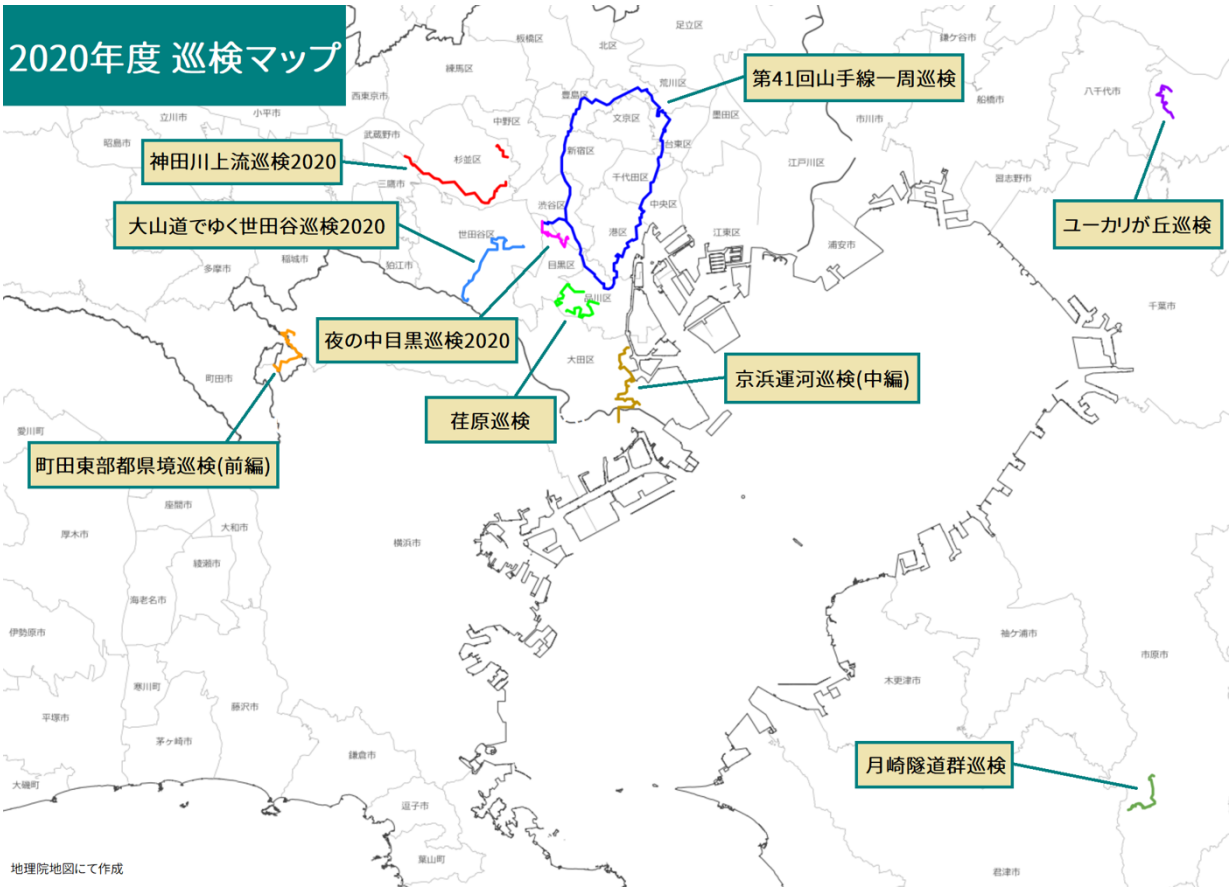
ただし、コロナ禍において感染対策を講じるうえで万全を期すため、当面は事前に参加登録をお願いし、巡検実施初日の10日前(新歓期は各日程の６日前)をその〆切としています。メーリングリストを通じて送られてくるフォームに回答することが、巡検参加の要件となりますので、お気を付けください。

最後に巡検の良い部分をお伝えしておこうと思います。まずは様々なものに触れ、広い分野の知識を得られるということです。地理部には多士済済の部員が集っており、それぞれ個性的な趣味を持っています。（もちろん漠然と「地理が好き」という人も多いです！）自分独りでは行かなかったであろう場所を辿り、見られなかったはずの景色を見ることができます。さらに、サークルですから、当然友達もできるでしょう。運動不足の解消にもなります（８km程度歩く)。上京してきた人にとっては、首都圏で土地勘を養う機会にもなるかもしれません。巡検は楽しいものです。

それでは、ぜひ巡検でお会いしましょう。お待ちしております。

（付録 昨年度の巡検）

昨年度は二度(４月～７月と１月～３月)の活動制限もあり、あまり巡検を開催することはできませんでした。それでも9つ28日程の巡検を開催し、最低限の参加機会は確保できたと考えております。禍転じて福と為す、ではありませんが、感染対策のために日程を分散させたことで、複数の曜日にまたがって巡検が開催されることが多く、部員にとりより参加しやすい活動となりました。



（１）町田東部都県境巡検(前編)
（２）ユーカリが丘巡検
（３）荏原巡検
（４）第41回山手線一周巡検
（５）月崎隧道群巡検
（６）京浜運河巡検(中編)
（７）神田川上流巡検2020
（８）夜の中目黒巡検2020
（９）大山道でゆく世田谷巡検2020

地理部の合宿

70 期総務

新入生の皆さん、こんにちは。70 期総務です。このページでは**地理部のメインイベントのうちの一つ**に数えられる合宿について紹介します。

地理部の合宿は年に 6 回程度あり、新歓合宿（実施の可否や時期は未定）を除いては長期休暇中に開催されています。普段の巡検は南関東で行われることが大半ですが、合宿では日帰りでは十分に見学することが厳しい遠方での街歩きや主要観光地への訪問を行うことによって、当該地域への理解を深めることを目標にしています。参加にあたっては事前申請が必要となりますが、参加する期間・行程などは自由に決めることができます。概ね現地集合/解散で新歓巡検は 1 泊 2 日、その他の合宿は 3 泊 4 日程度の日程でまとめられることが多いです。

2019 年度の合宿の行き先は以下の通りでした。

・新歓合宿（6 月）静岡市周辺（清水、大井川鐵道など）
・夏合宿（8 月）九州（高千穂、桜島、水俣、長崎など）
・秋合宿（9 月）前哨戦：岩手県（ブルトレの宿、宮古）本隊：北海道（札幌、沿岸バス、宗谷岬など）
・冬合宿（12 月）長野県（松本、長野、湯田中など）
・2 月合宿（2 月）瀬戸内（松山、呉、鞆浦など）

合宿では基本的に参加者全員が同時に動くことは少なく、合宿企画者たる総務、またはその地域に精通した部員などがそれぞれ**分隊**を受け持ち、同宿はするもののそれぞれ別の観光地を巡るという構造が多くなっています。そもそも分隊に参加するかは各部員が選択できますし、途中合流、途中離脱も可能であるなど非常にフレキシブルなもので、合宿の前後に個人的に旅程を付け足して楽しみを倍増させる部員も多くいます。

地理部の合宿は、**個人旅行の「自由さ」と団体旅行の「他者の視点からの刺激」という好ましい部分を併せ持ったもの**です。

昨今の情勢により、2020 年 3 月中旬以降の合宿活動は**全て取り止め**となっており、ここ 1 年間は合宿が実施できておりません。地理部の活動は東京大学の新型コロナウイルス対応指針のレベルによって実施の可否が決まりますが、合宿の実施はその活動の性格上巡検の実施よりも活動再開への基準が**かなり厳しく設定**されています。活動再開時期は**現段階では未定**ですが、学校からの通達により実施が許可される状況と判断されれば速やかに活動を再開したいと考えております。もちろんながら合宿自体への参加も自由ですが、皆さん奮ってご参加いただければと思います。

地図作業のすゝめ

70 期地図長

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。70 期地図長の池上です。地図長は地理部の主要な活動の一つである立体地図製作の進行を担当しています。

地理部では、五月祭や駒場祭で立体日本地図を展示しています。オンライン開催となった昨年の両学園祭でも、立体日本地図を映しながら部員が各地の地形の解説を行ったり、実際に地図作業を行っている様子をリアルタイムで実況したりしました。

この立体日本地図は、以下のように制作されます。

・日時と場所

例年は東京大学駒場キャンパスの学生会館一階ロビーにて、週に 1~2 回程度、平日 19:00～21:00 に実施していますが、当面は他大の方の入構が制限される見通しですので、今年は学生会館の他に渋谷で場所を借りて開催することも検討しています。日時と場所が決まりましたらメーリスでお知らせします。

・作業内容

作業工程は大きく分けて

① 等高線に沿って地図に線を引く
② 線に沿って地図の紙をカッターで切る
③ 電熱線を使ってスチレンボードの部分を切断して地図を切り分ける
④ ボンドを使って地図を組み立てる

の 4 つに分かれています。地図作業は未経験だという方も多くいますし、私たち先輩の部員が丁寧に教えるので気楽に参加してください。

地図作業は部員の交流の場でもあり、和気あいあいと楽しく作業をしているので、一度参加すると部員ともすぐに仲良くなれるでしょう。
地図作業にて皆さんとお会いできるのを楽しみにしています(๑>◡<๑)

神田川上流巡検 2020

1. 巡検概要

テーマ：日本で唯一の気象神社の見学を行う。また、昔から江戸・東京のシンボルであった神田川の上流部分が記録してきた歴史を辿りながら、神田川の源流地点である井の頭公園を目指す。

図 1：今回の巡検エリア(地理院地図より)

なお、東高円寺駅から方南町の移動は東京メトロ丸の内線を用いた。

２.巡検内容

(1) 気象神社

今回の巡検は高円寺駅から歩いてすぐの気象神社から始まった。なぜ神田川流域ではないのにこのようなところに行くのか？それは企画者が巡検内容に入れたかったからである。(本来は東高円寺-方南町の部分を歩くつもりだったが、新型コロナ対策の巡検規定で定まっている巡検時間に引っかかりそうだったため、今回のような少し奇妙なルートとなった)。

この気象神社は高円寺の氷川神社内にあり、日本で唯一の気象神社である。気象神社という名がついている通り、この神社で祈っているのは天気に関することであり、てるてる坊主を模したおみくじや好天を願う絵馬の下駄が吊るされていて境内は独特な雰囲気を醸し出している。(図 2) 法人や団体を対象とした晴天祈祷などの気象にまつわる祈祷も行われていたり、気象予報士試験受験者に対して合格守を販売していたりもする。また、例大祭が行われるのは気象記念日であるというのも気象神社ならではである。気象記念日というのは 1875 年(明治 8 年)6 月 1 日に日本で初めて気象観測が始まったことを記念して制定された記念日である。

この気象神社が初めてできたのは 1944 年の 4 月であり、現板橋区馬橋地区にあった陸軍気象部の構内に設営された。当時の気象予報は科学的根拠に基づいた予報であったとはいえ現在に比べて精度が悪く、しかし軍事作戦の計画にとっては非常に重要な要素であった。そのため軍の気象予報が的中することを祈るというのが設営の目的であり、その存在は軍の予報官の心のよりどころとなっていたそうである。戦後、陸軍の解体に伴い気象部隊が解体されて払い下げられた結果 1947 年(昭和 23 年)に今の氷川神社に移設された。しかし、老朽化が進んだため改築が行われることとなり、現在の位置に遷移されてから 55 年が経った 2003 年(平成 15 年)の気象記念日に現在の社殿の竣工が始まったそうである。

そして時は経ち 2019 年。この気象神社が登場する映画が大ヒットした。新海誠監督の「天気の子」である。この映画のネタバレとなるので詳しい話は省略するが、物語の中に登場する神社は気象神社をモチーフとしている。気象神社の社務所の中には「天気の子」に関係した展示もあり、映画の聖地の一つとなっている。(図 3)

図 2：気象神社の境内

図 3：社務所の中の様子

(2) 高円寺

先ほどの気象神社より少し南東に行くと見つかるのが、地名の由来にもなっている高円寺である。高円寺は 1555 年(弘治元年)に開山された寺である。この寺が有名になったのは江戸幕府第 3 代将軍徳川家光ときっかけされている。鷹狩りの際に雨宿りで立ち寄った家光を他の一般参拝者と同様にさりげなくもてなしを行ったことが気に入られ、その後も鷹狩りの際に休憩所として家光が立ち寄るようになった。その評判が広がったためにこの高円寺の名が世に広まることとなった。その鷹狩りの際のお世話の礼として家光は宇治からお茶の木を取り寄せ、自らの手で植えたとされており、そのお茶の木は今でも境内で見ることができる。また、この辺りの地名が高円寺となっているのも家光が関わっているとされ、この寺にちなんでかつての地名であった小沢村から高円寺村に改称したとされる。このように徳川家とゆかりがあるため高円寺の境内には徳川家の家紋である三つ葉葵の紋が見られる。(図４)

図４：高円寺の門の三つ葉葵の紋

(3) 方南町駅

東京メトロの駅にしては珍しい他の地下鉄や鉄道路線との接続がない終端駅である。同様の終端駅は東京メトロ系列の中では千代田線の北綾瀬駅のみである。

(4) 神田川取水施設

方南町駅から環状 7 号線に沿って南に歩くと今回の巡検で遡上する神田川に到着する。そこに存在する大きな施設がこの神田川取水施設である。神田川は日本で一番河川沿いの都市化が進んでいる川であり、それに伴ってコンクリートなどによる護岸などが行われた結果、都市型洪水が頻発するという問題が生じている。この神田川取水施設は増水時の川の水を取り込むものであり、その水は神田川・環状 7 号線地下調整池に貯蓄される。上流部で水量を減らすことで下流部での溢水を防いでいる。(図 5 、図 6)

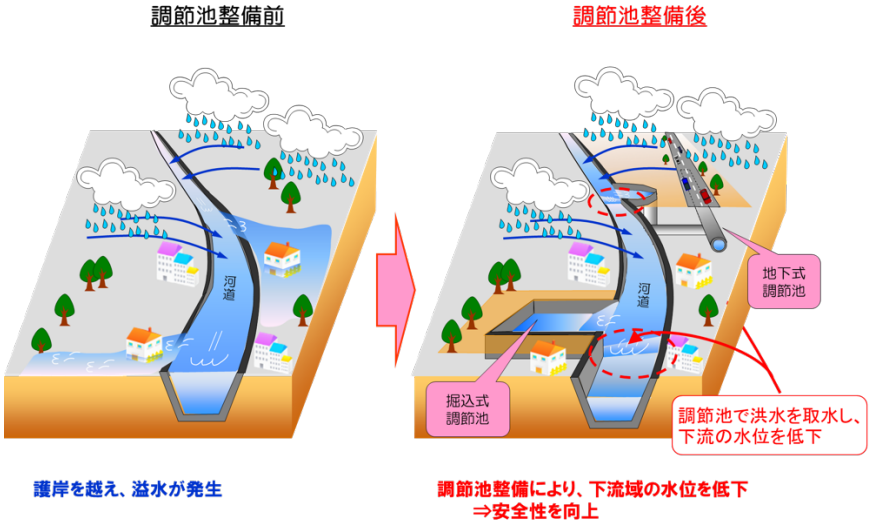


図 5 ：貯水池の役割(東京都建設局 HP より)

図 6 ：神田川・環状 7 号線地下調整池の取水部

(5) 和泉熊野神社と龍光寺

神田川和泉 2 公園を通過したところで宮前橋を渡り、神田川からわずかに逸れて少し南に移動すると和泉熊野神社と龍光寺に到着した。和泉熊野神社は和歌山にある紀州熊野本宮大社の分霊を祀った神社である。この神社にも家光の鷹狩りのゆかりのものがある。社殿左脇のクロマツは鷹狩りの際に休息に立ち寄った家光が手植えをしたものであると言われている。(図 7)

図 7：龍光寺のクロマツ

(6) 下高井戸おおぞら公園

下高井戸おおぞら公園は非常に新しい公園である。というのも、もともとこの土地は東京電力のグラウンドであった。しかし 2011 年の東日本大震災により経営状況が悪化した東京電力は 2012 年にこの土地を都に払い下げ、その後工事を経て 2017 年に新しく下高井戸おおぞら公園としてオープンした。したがってこの公園は都内でもかなり最近できた公園と言えるだろう。神田川にもこのような形で日本の歴史的災害の爪痕である東日本大震災の記録が残っているというのは非常に興味深い。(図８)

図８：下高井戸おおぞら公園の様子

今回の巡検を行った際には神田川の整備の一環として下高井戸おおぞら公園の地下に貯水池を建設する工事が進められていた。元々、神田川沿いに作られた貯水設備などによって時間 50mm の降雨に対応できるようになっていたが、近年ゲリラ豪雨が増えつつあるため、対応できる降雨量を時間 75mm まで引き上げるために工事が行われている。(図９)

図９：掘込式貯水池の工事の様子

(7) 塚山公園

塚山公園は高井戸駅と下高井戸おおぞら公園の中間付近にある小高い公園であり、今回の巡検ではここで休憩を取った。現在この公園がある場所では縄文時代中期の遺跡が見つかり、昭和 7 年頃から竪穴式住居跡や土器、石器が発掘されていた。元々この土地は新聞社の所有する農場であったが、昭和 48 年に国が所有するようになり、官舎が建設されるという計画が発表された。遺跡とその付近の緑地が失われることに反対した議会と区民が国に働きかけ、その結果杉並区に払い下げられて保存のために公園が作られることとなった。このような経緯でできた公園であるため、公園内には復元遺跡があり、椅子や水道などにも土器のレプリカが使われている。また発掘品は管理棟内で保存され展示もなされている。(図 10、11)

図 10：縄文時代の復元住宅

図 11：管理棟内の展示

(8) 富士見ヶ丘検車区

高井戸駅を超え富士見ヶ丘駅付近まで来ると富士見ヶ丘検車区を見ることができる。検車区とは車両の検査や清掃を行う場所のことである。富士見ヶ丘検車区では日常的な検査と臨時の検査と小規模な修理、そして車両の清掃を行なっている。車両検査には 10 日を超えない範囲で行う「列車検査」、3 ヶ月を超えない範囲で行う「月検査」、4 年または走行距離が 60 万キロを超えない範囲に行う「重要部検査」、8 年を超えない範囲に行う「全般検査」の 4 種類がある。このうち、富士見ヶ丘検車区で行なっているのは「列車検査」と「月検査」のみである。京王電鉄において他の二種類の検査は統一して若葉台工場で行われている。

(9) 三鷹台駅付近の境界線

久我山を通り過ぎてしばらく神田川に沿って歩くと、三鷹市と杉並区の境界にたどり着く。(図 12)

図 12：神田川沿いで初めて見られる三鷹市の住所表示

この境界を確認した後に、2 自治体の境界線を追いながら神田川を遡上し、三鷹台駅を超えたところで神田川から北側に少しずれたところにある三鷹市と武蔵野市と杉並区の 3 市区町村が接している地点を訪れた。

(10) 神田川源流地点

神田川の源流地点は井の頭恩賜公園内の井の頭池にある。井の頭池で湧き出した水は水門橋という小さな水を通り、流れとなって流出していく。この流出口の近くには表札があり、実際にここが神田川の源流であるということがわかる。(図 13、図 14) また、その近くには「神田川」と書かれた石碑も見られる。ちなみに、井の頭池の命名者は徳川家光であると言われている。また、井の頭池の湧水を御茶ノ水というが、これは徳川家康が井の頭池の湧水を用いてお茶を点てたことに因んでいる。

図 13：神田川の流出口

図 14：源流を示す標識

3．参考文献

・気象神社｜高円寺氷川神社(2020 年 12 月 10 日閲覧)：
https://koenji-hikawa.com/kisho_jinja/
・東京都建設局｜河川の管理及び整備(2020 年 12 月 11 日閲覧)：
https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jimusho/sanken/kasen.html
・東京都建設局｜中小河川の整備(2020 年 12 月 11 日閲覧)：
https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/river/chusho_seibi/index.html
・施設案内　塚山公園｜杉並区公式ホームページ(2020 年 12 月 12 日閲覧)：
https://www.city.suginami.tokyo.jp/shisetsu/kouen/03/shimotakaido/1007228.html
・和泉熊野神社｜神社と御朱印(2020 年 12 月 12 日閲覧)：
https://jinja.tokyolovers.jp/tokyo/suginami/izumi-kumanojinja
・京王グループ｜運転保安の向上(2020 年 12 月 12 日閲覧)
https://www.keio.co.jp/group/traffic/security_feature/keeping_up/index.html

大山道でゆく世田谷巡検 2020

１.概要

江戸時代の大山信仰の下で江戸から大山への参詣路として賑った青山通り大山道の旧道(の旧道)を辿りながら世田谷の歴史や地理を感じた。

２.場所

集合場所：三軒茶屋駅
解散場所：二子玉川駅

３.歩行距離

約 10km

４.巡検内容

（１）三軒茶屋駅周辺

・大山道追分道標［寛延 2 年(1750)建立＝徳川家重の治代］

江戸時代初期、赤坂御門から発した大山道はかつて三軒茶屋付近から北西方向の世田谷村へと伸びていた。その後、桜新町などを経由する、ちょうど現在の田園都市線のルートに当たる近道が開拓されたことにより、新ルートが大山道の本道となった。よってこの地は旧道と新道の追分となったのである。

この道標で「左相州大山道」と書かれているのはその新道のことを指す。桜新町という新しい町を通る方が新道であると考えると覚えやすいだろう。

「左相州大山道」「右富士、登戸、世田谷通」

・三軒茶屋の浮世絵

「三軒茶屋」なる地名は江戸時代中期、この地に三軒の茶屋があったことに由来するとされる。

そのうちの「田中屋」跡地付近には往時の姿が浮世絵で示されている。

下方の銘板には新旧の地図が併記されている。

「田中屋」跡地付近の銘板

『江戸名所図会』常磐橋

（２）大山道旧道（都道３号部分）

尚この先松陰神社付近まで都道３号世田谷通りを歩くが、これが大山道の旧道である。

しかし残念ながら当時の面影を残すものは多くない。強いて挙げるなら「常磐橋」だろうか。

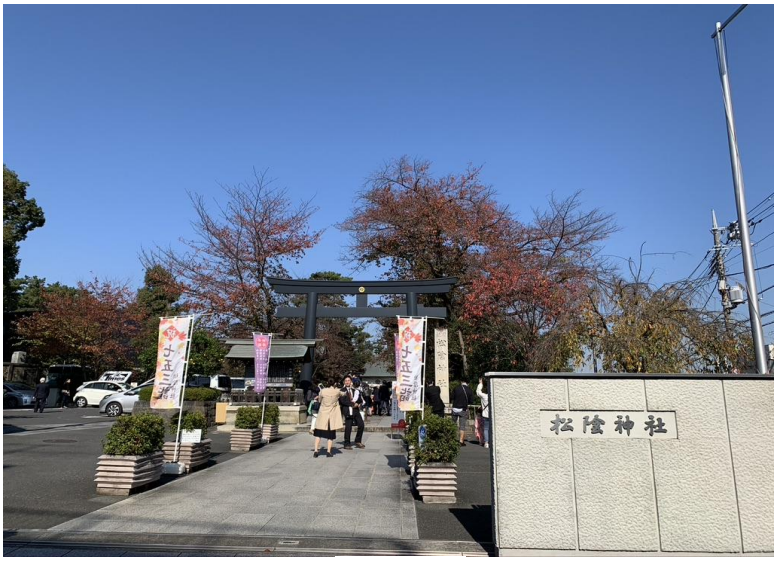
この付近のかつての情景について『江戸名所図会』に描かれている。

橋の付近には現在も緑道が存在するが、元は小さな用水路であったらしく名称等は不詳で、若林駅・烏山川緑道方面へ続いたのち住宅街の中に吸い込まれて消えていく。

（３）松陰神社周辺

・松陰神社

幕末の志士吉田松陰を祀る神社である。松陰は時の大老井伊直弼による安政の大獄に連座となり、安政六年(1859)に死罪に処された。松陰の遺骸は当初千住の小塚原(刑場があった)に埋められたが、4 年後に松陰門下の高杉晋作らにより長州藩の所領のあった世田谷若林の地に改葬された。　なお松陰神社が建立されたのは明治十五年(1882)のことである。



松陰神社

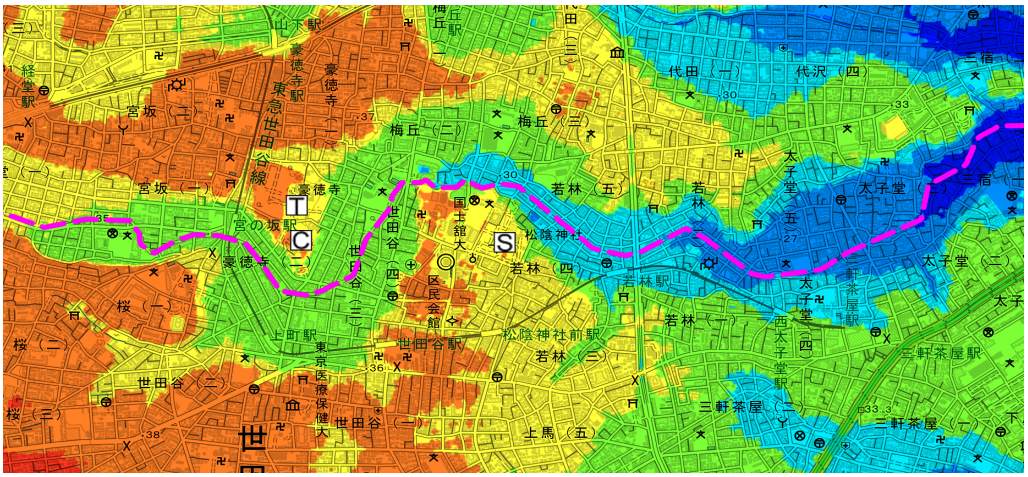
・復元松下村塾

松陰神社の本殿脇には吉田松陰が長州で開いたとされる松下村塾が実物大で再現されている。

（4）烏山川緑道

烏山川緑道は芦花公園付近から経堂駅付近を経由して某筑駒周辺まで続く延長 7km の緑道である。緑道に面した家屋が全て緑道に背を向けて建っている姿や、主に下流部において道路との交差点ごとに橋の柱などの遺構が残っている姿から、かつてここが河川であった様子が推察できる。

今回の経路上では烏山川の侵食崖が間近に迫っている箇所（下図参照）や景観維持のために緑道沿いに小規模な水路が造作されている箇所が主な見どころとして挙げられる。

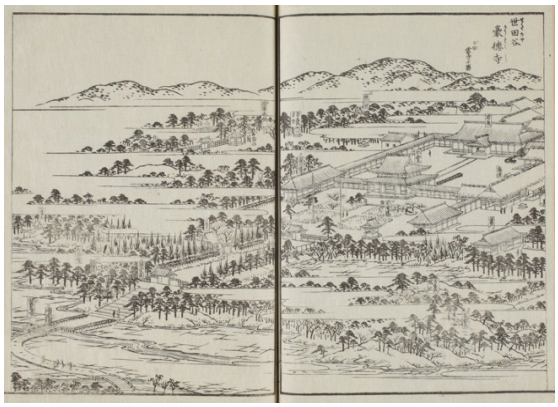


烏山川の侵食崖(地理院地図より)

（5）豪徳寺

豪徳寺とは彦根藩井伊家の菩提寺である。かの大老井伊直弼の墓所も境内に残る。「安政の大獄」という歴史的事件をめぐり、弾圧された側の吉田松陰の墓所と弾圧した側の井伊直弼の墓所が近接している点は興味深い。またこの寺は境内に陶器製の猫氏が大量に棲み着いていることでも有名である。

陶器製の猫氏

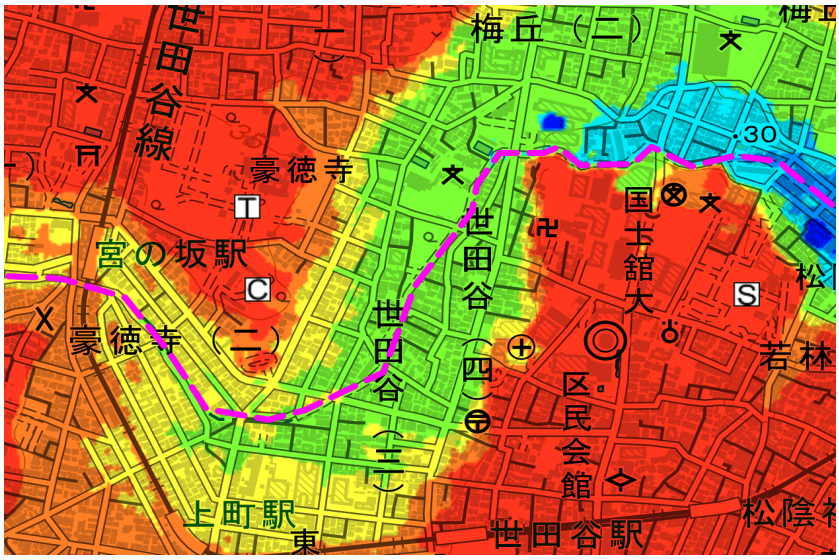


『江戸名所図会』豪徳寺

（6）世田谷城阯

世田谷城は 15c 初頭の室町時代頃に吉良氏によって築かれた平山城である。経堂台地の舌状台地上に位置し、烏山川が天然の堀の役割をもった。現在の城阯公園内には土塁や空堀が残されている。

なお本丸は豪徳寺付近にあったとされる。世田谷城は現在の公園よりもはるかに広い敷地を誇っていたことになる。

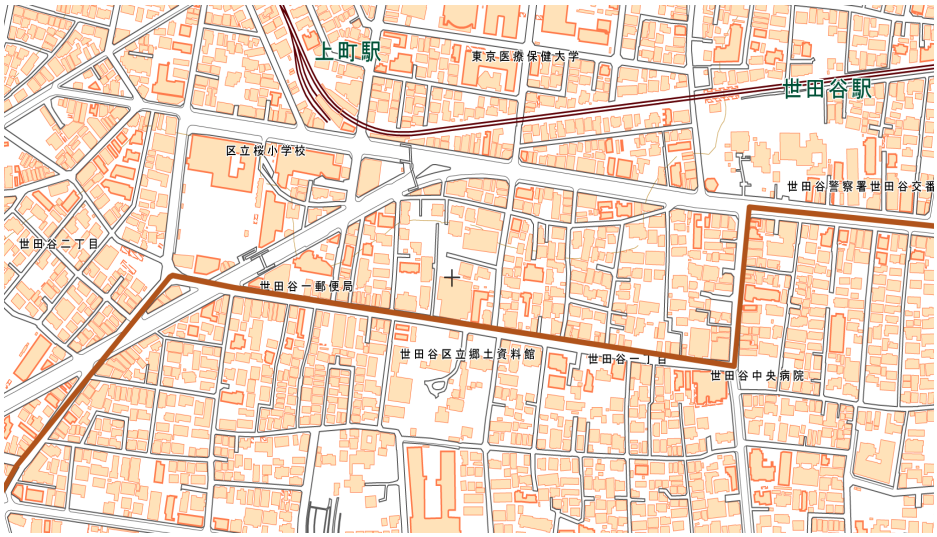


世田谷城址付近(地理院地図より)

（7）大山道のクランク

世田谷一丁目付近で直角的な曲がり角が多いが、これは吉良氏時代の宿場の名残とされる。

その後この地には世田谷代官所とボロ市が開かれた。なおボロ市は戦国時代の楽市に由来するとされる。



大山道のクランク(地理院地図より)

（8）世田谷ボロ市

郷土資料館の面している道はボロ市通りと呼ばれ、毎年 12 月 15 日/16 日と 1 月 15 日/16 日に約 700 もの露店が並ぶボロ市が開催され多くの人で賑わう。(※今年度はコロナの影響で中止が決定している)

世田谷ボロ市は安土桃山時代に当時の関東一円を支配していた後北条氏が開いた楽市を起源としている。当初は六斎市として開かれていたが、その後江戸時代になると世田谷城の廃止や矢倉沢往還の利用減少に伴い衰退し、年の暮れに 1 度だけ開かれる歳の市となっていった。なお明治に入り新暦が使われるようになると 12 月と 1 月の両月に開かれるようになった(農村では依然として旧暦に基づいて農作業が行われていたため)。ちなみにボロ市という名称が使われ始めたのは明治中期のことであり、古着やボロ布の取扱いが主流となっていたことに由来する。

世田谷ボロ市のチラシ

（９）世田谷代官屋敷（世田谷区立郷土資料館）

近世のこの地（彦根藩世田谷領）には代官が置かれ、大場家が世襲によりその職を担った。現在の世田谷区立郷土資料館敷地内には元文二年(1737)建造の屋敷が残されている。その建物内部は「役所の間」「次の間」といった執務室のほか、「切腹の間」が設けられ、事ある時はいつでもここで腹を切る覚悟で職務に当たったという。

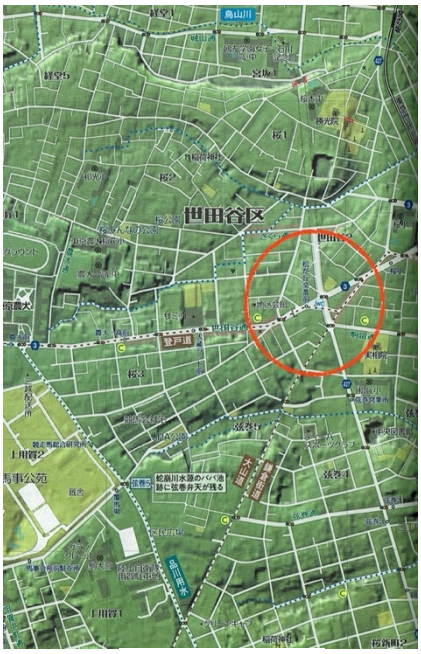
また併設されている世田谷区立郷土資料館では世田谷の地形や歴史、民俗について理解を深めることができる。

ちなみに資料館の入り口付近には各地から回収された大山道道標が移設保存されている。

世田谷代官屋敷（世田谷区立郷土資料館）

（１０）登戸道との追分

登戸道は今の世田谷から多摩川の登戸の渡しに通じる「道」（街道や往還に対する意味での「道」）で、登戸から先を含めて津久井往還と呼ばれることもある。登戸方面に進むと、2020 年 9、10 月の都県境巡検の際に柿生駅前を通っていた幹線道路に出る。今回の巡検ルートでは大山道と都道 3 号との分岐点周辺に大山道と登戸道との追分があった。奇妙な道路の交差の仕方に往時の面影が残っている。また追分道標の代替碑が建っている（本物は郷土資料館前に移設）。



登戸道との追分

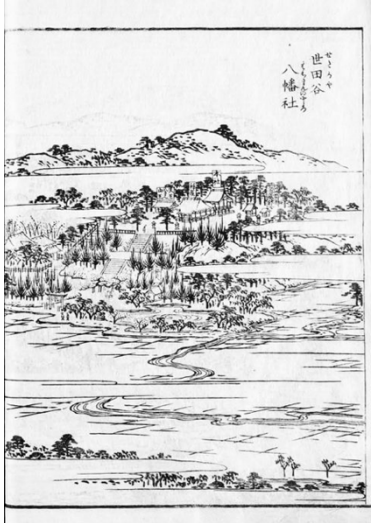
（１１）大山詣旅人の像

大山道と、下馬や中目黒駅を経て目黒川に注ぐ川である蛇崩川の交差地点にある大山道児童遊園には大山詣の旅人の銅像が設置されている。

また公園に面して八幡祠が鎮座しているが、これは世田谷八幡社がかつてこの地にあったことを伝えるものである。当時の様子は江戸名所図会にも描かれている。絵の中で手前側に流れている川が蛇崩川である。なお世田谷八幡社はその後、他の神社と合祀され弦巻神社となっている。

（※江戸名所図会の世田谷八幡社は宮坂近くにある世田谷八幡宮だとする説もある）

大山詣旅人の像



『江戸名所図会』世田谷八幡社

（１２）大山道新道と旧道の合流地点

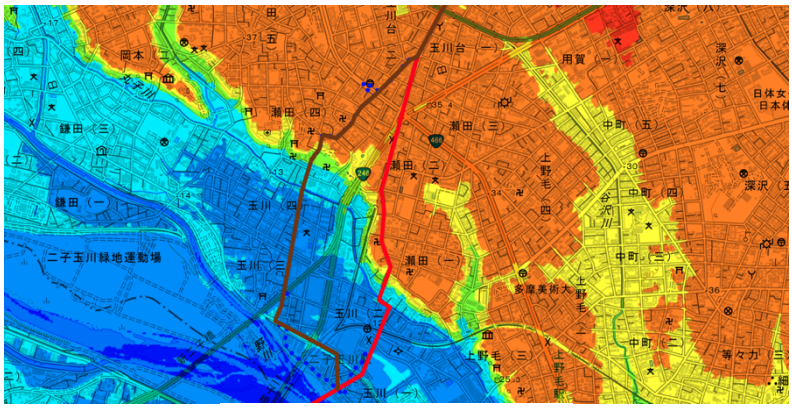
三軒茶屋で別れた桜新町経由の新道とここで一度合流する。その地点には「大山道追分」と記された道標がある。

（１３）玉川台の追分

旧道は三叉路を斜め右方向、新道は直進方向である。

（１４）慈眼寺坂

環八を越え、瀬田に入ると国分寺崖線を下る旧坂が出現する。これが慈眼寺坂である。



慈眼寺坂(地理院地図より)

（１５）二子の渡し跡

多摩川沿いに出ると二子の渡し跡がある。ここで旧道と新道は合流する。渡し舟の対岸は二子新地である。地名の通りこの周辺はかつて料亭街として栄えた。

（１６）玉川東陸閘

先程の渡し跡を含む玉川１丁目付近は所謂堤外地であり、二子玉川駅の南東方に土手が築かれている。なお車や人の通行を可能にするため、土手の一部に切れ目があるが、多摩川の氾濫時にはこの切れ目に板をあてがい、内陸部への水の侵入を阻止したとされる。

そもそも堤外地ができた発端は、大正 3 年(1914)年の多摩川の大洪水である。これを機に河川改修が進められたのだが、川辺に立ち並ぶ料亭などから眺望の悪化への懸念を理由に反対運動が巻き起こったため、料亭街を堤外に除いた形で堤防が造成された。それと同時に非常時の避難経路として手動で開閉のできる陸閘が設けられたとされる。

玉川東陸閘

５.参考文献

・『ホントに歩く大山街道(未知の道シリーズ)』(風人社)　中山龍二郎著
・『東京２３区凸凹地図』(昭文社)　清水康史著
・地理院地図(https://maps.gsi.go.jp)
・東京都立図書館．"江戸東京デジタルミュージアム"(https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/portals/0/edo/tokyo_library/database/index.html?page=19&ky=&ca=)
web サイトは 2020-12-16 閲覧